

# 樹医からのアドバイス (Vol.07)

～冬支度…紅葉そして落葉～

出雲市樹医センター

樹医 勝部 治良

日本の四季を彩るものの一つに、秋の紅葉があります。カエデやハゼノキの赤色、イチョウの黄色、時には褐色の葉なども見られます。私たちを楽しませてくれる紅葉は、樹木の冬支度の一環なのです。

## どうやって色が変わるの？

植物の色素には、太陽の紫外線が当たって生み出される有害な活性酸素を消去する働きがあります。美しい花びらの色は、植物の自己防衛の結果というわけです。

秋に入り気温が低く、日照時間が短くなってくると、葉の老化現象が進み、色素の分解・合成が起こります。葉に含まれる緑色色素クロロフィルの分解が進むと、元々葉に含まれていた黄色色素カロチノイドが目立ってきます。これがイチョウなどの黄葉です。一方カエデなどの紅葉は、葉に蓄積された糖から赤色色素アントシアニンが作られることによります。

## なぜ落葉するの？

秋になり葉の働きが弱まると、樹木は無駄な部位を落としてエネルギーを蓄えようとします。葉の付け根に離層という膜ができ、光合成で作られた養分や根から吸収した水分が行き来できなくなります。そして最終的には切り離されて落葉します。

紅葉する落葉樹も、葉をつけたまま冬を越す常緑樹も、枝の先に大きな冬芽を膨らませ、冬に耐えて春を待ちます。樹木の冬支度を助けるには、病落葉や枯枝の焼却処分、寒肥（有機肥料）の施し、土の天地返しなどに心がけてください。



紅葉するカエデ